

令和6年10月31日

9年生保護者のみなさま

羽曳野市立はびきの埴生学園
校長 東 浩 朗



令和6年度「全国学力・学習状況調査」について

清秋の候、保護者のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度実施いたしました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

令和6年度「全国学力・学習状況調査」分析結果

1. はじめに

全国の中学3年生（9年生）を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は4月18日に国語・数学が実施されました。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

既に配布しました個人結果と併せてご覧いただき、ご家庭でも本調査の結果についてお話ししていただきますよう、よろしくお願いいたします。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

2. 結果の分析と今後の課題

(1)国語

【成果】

基本的な知識や読み取りの問題では、全国や大阪府の平均と比べて正答率が高いものがある。特に、漢字や、短歌の表現技法、行書の特徴についてなどの問題の正答率は高く、基本的な知識が身につけているように感じる。日ごろの漢字テストや毎勉プリント、毎勉テストの成果が出ていると考えられる。

【課題】

選択肢を選ぶ問題の無回答率はほぼ0%であったが、読み取って書くなどの記述式の問題は正答率が低く、無解答が多かった。このことから、書くことに対する苦手意識が強く、答えを書こうとする意欲が低下しているように感じる。

知識・技能の観点よりも、思考・判断・表現の観点の方が正答率の低い問題が多く、普段の読み取りの授業で、自分で考えたことをさらに深めていくことが大切だと感じた。

【課題克服のために】

書くことに対する苦手意識をなくすために、日ごろからさらに、自分の考えを根拠をもって書く練習をする機会を多く設ける。自分の意見を書くだけでなく、仲間の意見を聞いて、自分の考えを再度見つめ直す時間もつくりたい。

作文や論説文などを書くときは、書き方の型を学んで、何度も書く練習をすることで、応用力をつけさせたい。また、資料やグラフを読み取る問題では、ただデータを読み取るだけでなく、自分の考えを必ず持つ習慣をつけさせたい。

(2)数学

【成果】

全体的に問題形式が短答式であり、知識・技能を問われる問題に関しては他の形式や観点に比べ正答率が高い。授業ごとに実施している知識技能を問う小演習や、繰り返し基本的な計算技能を演習している結果が一定出ていると考えられる。

また、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する問題や問題場面において考えるべき対象をとらえて計算する問題の正答率も他と比べて高く、様々な状況や特色のある問題を取り扱っている効果も一定出ていると考えられる。

【課題】

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題と、三角形の合同を基にして、筋道を立てて考え、証明する問題の無回答率が高かった。説明や証明の根拠を見つけ、表現することに課題があると考えられる。また全体的にも「思考・判断・表現」を問われる問題の正答率が低い。1つの問題に対して粘り強く考え抜くこと、それを合理的に表現することに課題があると考えられる。

【課題克服のために】

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の仮定を数学的に表現できる力が必要である。授業では、証明するための方針を立て、わかることを整理し、それに基づき仮定や必要な関係を根拠として見出す場面を設定していく。

また、データの分布の傾向を読み取って判断、考察できるようにするために、データの比較と考察、その理由を四分位数や箱の位置などの数学的な表現や特徴を根拠としながら比較し検討する場面を設定していく。その活動の中で、四分位範囲など数学的な表現や視点の必要性和意味を理解できるよう留意する。

3. 生徒質問紙より

【成果】

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、「当てはまる」と答えた生徒は 67.3%で大阪府・全国平均より約 23 ポイント高く、肯定的回答な解答は 100%という結果だった。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、「当てはまる」と答えた生徒が 38.5%で府より 7 ポイント、全国より 9.8 ポイント高かった。「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問や、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問では、「当てはまらない」と回答した生徒が 0%であった。授業はもちろん、学校生活全般で、どの生徒も活躍できる場面をつくり、評価していることがこの数値の高さに表れていると考えられる。分からないことがそのままになってしまうのではなく、きめ細かに対応していることがこの結果につながっている。

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問や、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問では、肯定的回答な解答は約 90%であり、大阪府・全国平均より高く、集団づくりを主軸として、「自分の考えや思いを書く力を育てる」取り組みを継続してきた成果だと考えられる。

【課題】

学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間「ゲームをしますか」という質問で、3時間以上と解答した生徒が合わせて 55.8%、「SNS や動画視聴しますか」という質問で、3時間以上と解答した生徒が合わせて 59.6%であり、両質問とも大阪府・全国平均を大きく上回っている。それに比べ、「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、大阪府・全国平均と比較して、1時間未満と解答した生徒がかなり多く、特に休日では合わせて 61.5%と大きく上回る結果となった。

【課題克服のために】

学校での生活に肯定的な回答をしている生徒がどの質問でも高かったので、今後も「集団づくり」を主軸としながらも、「自分の考えや思いを書く力を育てる」取り組みを継続し、きめ細やかな指導を続けていく。

その中でも、学校の授業内外でも ICT 機器を自主学習や意見交流など様々な場面に使用できるよう、指導や啓発を行う。

家庭学習については、自らすすんで学ぶことができるように、各教科の課題内容や課題提示の仕方に工夫を行い、学力向上に努めていく。具体的には、タブレ

ットを活用した課題の設定や毎日の自主学習プリントの実施などを行い、家庭学習時間の増加につなげていく。

また、学習意欲を高めるために、将来の夢や目標をもつことが必要である。自分の進路を考えさせる学習として総合の時間を活用し、さまざまな進路学習を行う。

4. おわりに

今回の全国学力・学習状況調査の分析より、成果や課題が見えてきました。特に課題については、子どもたちの実態に即した取り組みを進めて行くことで、本校の「めざす子ども像」につながっていくと考えております。

これからも子どもたち一人ひとりの成長を、私たち教職員とともに見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。